

## 患者さんの体と心に寄り添う接骨院から、喜びの輪を広める

仙台市を拠点に接骨院などを経営している「株式会社よくする」代表取締役の鈴木盛登さん、柔道整復師の資格を持ちながら接骨院を多店舗展開し、患者さんの体だけではなく、心にも寄り添う治療をされています。治療家として、そして経営者としての思いを伺いました。



### ◆取り組みのきっかけ

「柔道整復師」という資格は、骨折、脱臼、打撲、捻挫、挫傷に対して治療を行える国家資格です。日本古来の「柔術」に由来する治療法で、古くから「ほねつぎ」として知られてきました。私ももともと柔道をしていて、柔道整復師の仕事は身近にあり、自然と柔道整復師を目指すようになりました。父親も柔道の師範で、接骨院を開業していました。専門学校で柔道整復師の資格を取り、接骨院で3年間技術を学び、整形外科のリハビリスタッフとして3年勤務した後、父親と一緒に2年間働きました。合計8年間治療の技術を学び、2000年に父親が作った接骨院を引き継ぎました。現在は「鈴木接骨院グループ」として、仙台市内に9店舗を出店しています。体の肩、首、腰、関節の痛みなどを改善するために、日々スタッフとともに患者さんの治療に取り組んでいます。

#### ◆どんな取り組みをしているか

接骨院で働く私たちの仕事は何か、と考えると、「**手当てをすること**」だと思っています。高度な医療については、お医者さんにはかないません。お医者さんがみきれないところをやるのが私たちのやるべきことだと考えています。医者の治療でも取れない痛みはあります。痛みがどこかにあれば、感情はプラスになりません。でも痛みが取れた！というのは未来や人生に希望を持つことにつながると考えています。

私たちはお医者さんよりもよく話が聞けるし、話を聞いた人が手を当てて、その言葉通りに「手当て」をすることができる。**手で直接触れることで人としての温かみを伝えながら治療ができると考えています。**「鈴木接骨院グループ」のロゴマークも「手」のマークにしています。これは「Hand Bird (ハンドバード)」と名付けたのですが、私達の手を通して、体だけではなく心も元気になってもらう事で、人生をより豊かにより快適に歩んで欲しい。大きな羽を広げ人生を楽しんで欲しい。という想いを込めています。



#### 「体と心」の両面を元気に

患者さんには「親切・丁寧・まごころ」を心掛けて接しています。私たちは「手」を当てているからこそ「親切・丁寧・まごころ」がその手を通して患者さんに伝わっていくからです。逆に心が乱れていると、手が雑になってしまう。だからこそ「親切・丁寧・まごころ」が大切だと考えています。

また、「**体**」だけではなく「**体と心**」の両面を元気にすることを心掛けています。実は痛みを抱えているようでも、話を聞いていると、心のストレスがその痛みの原因の一つだということがあると感じています。例えば、小学生の頃から肩こり…という大人の方の治療をすることがあります。その方は何十年と慢性の肩こりと自覚しており、マッサージ店に行っても、病院に行っても、他の接骨院に行っても変わらない…と話されていました。

その方に肩の治療だけをして対症療法となります。我々柔道整復師の資格を持っている者は、小学生の頃に肩がこるということは解剖学的に考えられないのを知っています、人間の体の成長は20歳まで続くからです。ただその方はそう話しているのでそこは否定せずに、小学生の頃、肩がこりはじめた時と認識している時になにかあったのか？ということをして治

療しながら聞いています。すると小学生の頃にご家庭で問題があったり、何かしら心的ストレスを感じる出来事があったりするのです。



ある意味患者様、お客様に寄り添い、医学的かつ人間愛的に関わり、お体の変化だけではなく、そのお体の原因がストレスや何十年前のプライベートの出来事の場合、そこに気付いていただく関わりをしています。例えば背中に手を当てながら、「他に、何かあったんですか？」と聞いてみる。すると本人が心のストレスに、気づくこともあります。その本人が気づいたり、考えた

りすることがとても大切だと考えています。すると10年、20年続いたような痛みが取れることもあるのです。

心にふたをしている方、それが原因で体調に現れている方、とても多いと感じています。接骨院、整骨院には原因がはっきりしないが体調が優れない「不定愁訴(ふていしゅうそ)」という症状の方も来院されます。心のふたが開き、自分らしく生きていけるとなると心も身体もどんどん改善の方向へ向かいます。どこに行っても良くならなかった肩こり、腰痛がここで良くなった！これが我々が一番嬉しい言葉でやり甲斐です。



私たちは接骨院をやっていますが、体のことだけではなく心のことも勉強しないといけないと思い、心理学の勉強もしています。心理カウンセラーの方のように専門的なことはできませんが、悩みごとに対して、それを解消できるようなお手伝いができればと考えています。もちろん体のことについても、勉強を重ねなければなりません。人によって症例は様々

です。体の痛み方、痛みの表現の仕方も人によって違います。すべての患者さんに対応するためには常に知識を取り入れながら勉強することが大切だと考えています。

(GATEWAY 記載の内容を抜粋)